

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400393		
法人名	社会福祉法人 慈愛会		
事業所名	グループホームひまわり(ユニット1)		
所在地	日田市大字東有田字町ノ坪2-4		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成30年1月18日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年12月1日		

家庭的な雰囲気を大切に、ゆっくりした時間の中で入居者のペースで過ごしています。入居者と職員で味噌作りや干し柿作りなど四季を感じる行事を行っています。また、施設内の畑で四季折々の作物の収穫も楽しみになっています。併設する有料で月2回の習字教室やレクレーション協会の講師が来ての合同レクなどに参加しています。他の利用者との交流もあり楽しみになっています。また、2ユニットでの合同カラオケや食事会、外出、運動会なども行っています。年1回家族の方を招き、家族会を行っています。手作りの料理で和洋折衷・デザート等を沢山準備し家族と入居者の方との楽しい時間を過ごせるようにしています。安心して毎日が過ごせるように安全面には注意し環境整備に努め、落ち着いて生活が送れるように支援しています。

- ・その人が過ごしてきた生活歴を大切にして、菜園で野菜を育てたり、味噌作りや干し柿をみんなで作るなどの季節の楽しみごとを工夫している。
- ・ゆっくりした時間の流れの中で過ごしてもらえるよう、職員の配置を多くして寄り添うケアが実現できている。
- ・併設の施設に来てくれる習字やカラオケ、踊りなどの催しを楽しむことができる。
- ・家族と一緒に過ごす時間が多く取れるよう働きかけたり、近所の人への訪問を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉の拠点として公正で開かれた施設運営に努めるとの理念のもとに全員が理解し日々取組、理念を理解できるように話し合っています。	理念は、利用者が自由でやすらぎのある暮らしの実現を謳っており、職員は日々の関わりの中で理念が実践できているかを話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、運営推進委員会に自治会長や民生委員、駐在所所長の参加により地域との交流があります。また、中学校の文化祭などに参加しています。	地域との交流を大切に、自治会長や民生委員、駐在所長に働きかけを行ない、また中学校の文化祭に参加するなど、認知症への理解を深めるよう地域で活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献のため小学校、中学校、高校生の受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は2カ月に1回行い、参加者は自治会長、市職員、包括支援センター、民生委員、家族代表、駐在所所長、職員での情報交換を行っています。また、行政や家族の意見や情報等をサービスの向上の向上に活かせるように職員に周知しています。	運営推進会議は2ヶ月に1回行われ、議案や記録の作成も詳細に行っている。駐在所の所長から、お茶飲み会を提案され、地域交流の一つとして実施している。高齢者が気をつける注意点などを議題の中で話している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会や市の職員等に相談し指導を頂き、災害等には施設お避難場所として活用してもらえるようになっています。	市担当者や包括支援センターとも緊密に連絡を取り、相談に乗ってもらったり、わからない点を聞いている。災害時の避難場所として活用してもらうよう整備をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料を通して学習し、身体拘束をしない取り組みを行っています。職員間でも注意し虐待防止に努めています。	虐待防止委員会の研修を受け、共有できるようにグループホーム内での伝達研修を行っている。身体拘束とは何か、どういう弊害があるかを職員に考えてもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を通して学習し、虐待をしないケアの取り組みを行っています。職員間でも虐待を見過ごされないように注意を払い虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援や成年後見制度について学ぶ機会を持ち活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約又は改正等の際は利用者や家族に十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け対応し、管理者や職員等に周知しサービスの向上に反映させています。	日頃の家族との関わりの中から要望を聞き、職員で話し合っ、できることは改善に向けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や会議の中で、通常の業務のほか問題点を説明し職員の意見を聴き業務に反映しています。	月に1回の職員会議や担当者会議の中で、職員の意見を聞いている。浴室の改造やリフトの導入などに職員の意見が採用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が利用者にとって良いケアが出来るように各自が向上心を持ち働く職場環境、条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員1人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、九大ブロック等に参加し同業者との情報交換や交流、研修などの活動に参加し、サービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安なこと要望等に耳を傾けながら、本人が安心するための関係を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時に家族からの相談、不安や家族からの要望、入居者の生活歴などを聞くことで安心感をもってもらっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた時に、併設施設や他の施設の情報を伝え安心できるサービスの提供をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要望や意向をその都度確認しながら本人の出来ることやしていることを大切に、日常生活の中で会話を増やし、他の入居者との交流が出来るよう職員は支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支え関係を築いていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人の希望による外泊や外出が行われ、近所の方とのふれあいが支援出来るように努めています。	家族の面会が多く、知人も定期的に訪問しているので、おもてなしに気を配っている。新しい知り合いができるよう、他施設への訪問やご近所への挨拶などのふれあいに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出などで入居者同士が手をつなぎ、お互いに支えあい孤立しないように職員が支援しています。併設する施設での習字教室、合同レクに参加し、入居者同士が交流をもち支えあうように努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所等ではお見舞いに行ったり、状況に応じて経過をフォローして相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞き入れ、家族などに情報収集し意向の把握に努めています。	会話の中で知ったことを職員で共有し、ケース記録に記入している。困難な場合は家族に聞くなどして意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方など情報を家族などから聞き、自分らしく安心して生活出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの一日の過ごし方、心身状態や有する能力の現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態、職員間での話し合いを持ち家族会や面会時に家族の意見を聴き現状に即した介護計画を作成しています。	本人の持っている力を確認し、これまでの生活歴を考慮しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、工夫や気づきを個別記録に記入し職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の施設の情報や法人内の有する施設、在宅サービスなどの利用出来るよう、また、日中や夜間に関わらず柔軟なサービスに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や公民館館長より地域行事の情報を頂き参加出来るように努めています。また、地域消防団の方より災害時に備えて駆けつけてくださるようになっていいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医他、利用者のかかりつけ医を利用できます。家族と協力しながら通院を行い、適切な医療が受けられるように支援しています。	在宅からのかかりつけ医に職員が受診に連れて行っている。体調についての報告や受診後の結果は家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の生活の中でとらえた情報や気づき併設の看護師い相談したり、協力医に相談できるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者個人情報を医療機関へ提出します。また、医療関係者より情報を頂き退院後の相談、会議等を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来ることを十分説明しながら家族と話し合いを行っています。	入居時に、看取りはしない方針を家族と話し合い、重度化した場合はその都度、事業所として対応できる内容を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体状況によって救急車を要請し、医療機関に搬送の方法をとっています。応急手当など緊急時の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年に2回、4月と10月に消防署の協力で避難訓練で避難経路や消火器の取扱、誘導の訓練を行っています。地域の協力については地域消防団の協力を得られるようになっていいます。	火災や地震、水害などを想定した訓練を行い、職員が避難通路の見直しや消火器の取り扱いなどを確認している。避難方法の一つとして2階からの滑り台なども設置し、備蓄は3日分と十分な量を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに対応しています。	トイレの声かけは耳元でおこない、誇りを傷つけない対応を心掛けている。自由に過ごしていただくことを大切にして、余分な声かけやお世話はせず、見守りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを聞くように心がけています。また、自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人ひとりのペースに合わせて本人が好きなおことをして過ごします。日々安心して穏やかに生活出来るように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスに配慮した食事を提供し、食事が楽しみになるように器や盛り付けに配慮しています。また、食後の片づけなど手伝いをさせていただいています。	3食ともにグループホーム内で手作りし、畑の収穫物や手作り味噌を使っている。熱いものは熱いまま配膳し、好きなものを献立に取り入れて、たまに外食などにも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、食事摂取量などに注意し不足があれば食事以外のものでも摂取を考えます。ご自分で水分摂取出来ない方には状況に応じて摂取出来るように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとり口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、本人のタイミングに合わせてトイレ誘導を行っています。ご自分でできる方は自立に向けた支援を行っています。	排泄の自立を目標とし、パターン表をとってトイレに誘導している。夜間はセンサーでトイレ誘導を行う。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食満繊維の摂れるメニューにしています。また、適度な運動に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとり個浴で入浴し、職員との会話を楽しんでいます。体調不良時や本人の意思を無視し無理に入浴しないで清拭に切り替えるなど支援します。	2日に1回の入浴を基本とし、夏場は毎日入浴している。高齢の人で毎日入らなくていいという人には清拭をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の換気、天気の良い日には布団を干しています。室温管理等を行い快適に安眠や休息ができるように支援に努めます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や目的を職員が理解し都度様子を見て確認しています。症状に変化があるときは、主治医に相談し助言をいただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や習字教室、レクレーション協会のレクへの参加で他の利用者との交流をもち気分転換できるように支援しています。年に2回職員と味噌づくりも行っています。洗濯干しや洗濯たたみも楽しみの一つになっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員との買物やドライブ、近所への散歩など行っています。	季節の外出行事で、花見、高塚さんへのお参り、山田の案山子祭りなどを楽しんでいる。出かけた先での買い物も楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない利用者がほとんどです。本人のお小遣いは職員が管理しています。希望の品物や必要な物の購入時は本人の又は家族に確認し購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段は家族の面会がありますが、本人の希望で電話を掛けたることもあります。家族からの電話を本人に取り次ぐこともあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間・食堂・ユニットバスの浴室改築等共用の空間など配慮し生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるような居場所の工夫をしている。	採光の十分な広いリビングに高級感のあるソファがおいてあり、そこでテレビやカラオケなどを楽しんでいる。余分な飾り物がなく、よく整頓されており、利用者どうしが自分の居場所を決め、仲良く話している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間でコミュニケーションの場を作り、個々の時間は自室で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人の意思を聞き入れ馴染みのものなど生活に取り込み安全な環境作りをしています。	それぞれに使い慣れたものや家族が持ってきてくれたものを置き、その人らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に入浴できるユニット型リフト浴の整備や利用者の状況に合わせて手摺や浴室の冷風・温風・居間の広々したの解放感などの整備を行い利用者が安全に移動できるように工夫しています。		